

# みこむだこ

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会  
〒140-0001 品川区北品川2-2-10 TEL 03-3472-4772 FAX 03-3472-4770  
URL <http://www.japan-city.com/sina/> E-mail: [syukuba@cts.ne.jp](mailto:syukuba@cts.ne.jp)

## 恭賀新年

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

さて昨年スタートしました「地域連携型モデル商店街事業」では、時間的に切迫した中、地域の皆様には様々ご無理をお願いしましたが、おかげさまで集中的に地域の問題を話し合うことができ、大変に意義のある成果を得ることができました。特に、鮫洲、立会川、鈴ヶ森周辺の皆様にもご参加いただいたことは、これからのまちづくりの大きな弾みになることと思います。この成果を17年度内に計画書としてとりまとめ、18年度には実施へと移してまいります。

思えば、私たちが中長期の活動目標を定めた「まちづくり計画書」を作成してから、早いものでもう10年が経過したことになります。その意味では、昨年からは着手した本事業は、これまでの10年を振り返りつつ、さらに次世代へと引き渡すまちづくりを考える上でも、大変に有意義なものだったと考えています。

また、このまちづくりの見直しと歩調を合わせるように、北品川の三商店街では電線の地中化のための基礎工事が始まり、八ツ山口では、アンダーパス修景事業の最終デザインの協議も始まりました。この修景事業では当協議会が窓口となり、鉄道・運輸機構及び設計事務所と調整を重ね、品川宿の入口として相応しい整備をお願いしております。この件では、ゴジラ像建設計画などで、品川礎会の皆さんや品川女子学院の皆さんにも何かとご迷惑をおかけしました。残念ながら現時点では、著作権の問題を突破することができておりませんが、今後ともねばり強く交渉してまいります。

また北品川の3商店街では、品川区商店街連合会のお力添えのもとで、「北品川まちづくり宣言（わたしたちのマニフェスト）」を発表し、3商店街統一の「きたしなカード 葵」を作成することになりました。買い物のポイントとエコスポットの両方が貯められる、新システムを共同で開始するという活動は、まちづくりをソフト面から支えるもので、大変に喜ばしいことと考えています。

さらにNPO法人東海道品川宿では、2軒目となる「居残り 連」を昨年1月にオープンしました。この店舗は落語の居残り佐平次にも登場する饅頭の「荒井家」跡をお借りし、品川の名所を残したい、という気持ちから「居残り 連」と名づけ、地元出身のシェフが洋食を中心としたメニューで、新しいお客様にも大変好評をいただいております。

当協議会では、今後ともNPO品川宿の活動に協力してまいります。

このように昨年は、品川宿周辺が目に見える形で大きく始動した年となりました。

今年も引き続き、品川宿再生にどうして最大のチャンス的一年と位置づけ、「地域連携型モデル商店街事業」の実施を中心に、継続事業にも力を緩めることなく、全力で取り組んで参る所存です。皆様方におかれましても、昨年同様、品川宿再生に向けてお力添えを賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

会長 堀江 新三

## 平成17年度、18年度、新規事業 「地域連携型モデル商店街事業」の推進。

私たちが平成7年に「まちづくり計画書」をまとめたから、早いものでもう10年が過ぎました。その節目の昨年、東京都、並びに品川区から「地域連携型モデル商店街事業」のご提案をいただきました。

ご承知のように、ここ数年の間にちは大きな変化の波に巻かれました。舞鶴山から始まり、天王橋、品川駅東口、品川シーサイドフォレスト、大森駅周辺と、このまちをぐるっと取り囲むように、かつてない大規模再開発が次々に実施されました。そしてさらに、それらの再開発に追随する形で、マンション、オフィスの建設ラッシュが今もなお、続いています。

一方、八ツ山口から鈴ヶ森を貫く旧東海道は、今や存在する街道の中で最も長いものひとつに数えられ、日本の歴史的遺産としても大変貴重な宝物となっています。

「まちづくり計画書」が10年を経過したこの機に、もう一度このまちを見直し、次の世代へ引き継ぎべきまちづくりに、具体的な手を打つことは大変に意義のあることと考えています。

### ●「地域連携型モデル商店街事業」の概要

東京都は平成17年度、18年度に「地域連携型モデル商店街事業」を推進します。その骨子は、18年度に具体的な事業を実施し（この事業費に対して、事業費の5分の4を補助。地元負担は5分の1）、17年度はそのための計画書を作成すること（この事業に対して、事業費の3分の2を補助。地元負担は3分の1）です。

この事業提案を受け、協議会は区とまちとの窓口、調整役として「地域協議会」を組織し、計画書づくりを進めることにしました。

#### <補助対象事業>

- 1) 商店街と区が連携し、地域住民、NPOなどの地域団体の参加の下に協議会を組織し、その意見を踏まえ17年度に計画策定し、18年度に事業実施するものであること。
- 2) 環境、福祉、観光振興、情報などの地域ニーズと行政課題に対応したテーマに合った事業であること。

### ●想定される整備事業候補（案）

#### 1. 東海道を石畳で整備する案

東海道の歩道部分を石畳とし、車道部分は共通仕様のアスファルトで舗装する。

主に、宿場通り南会、青物横丁（未整備部分）で検討。

#### 2. 商店街街路灯を建て替える案

東海道沿いの街路灯を共通デザインの商店街街路灯に建て替える。

主に、宿場通り南会、青物横丁、鼓洲で検討。

#### 3. 商店街ゲートを建て替える案

共通デザインの商店街ゲートに建て替える。

全区で検討。

#### 4. 私道、参道、路地を石畳で整備する案

東海道に接続する参道、路地に石畳を敷設する。  
主に、立会川、各地区の寺社参道、主な路地で検討。

#### 5. 小さな灯りを整備する案

私道、参道、路地に面した各店、各家の協力を仰ぎ、壁付けあんどん、軒付け吊しあんどんを設置し、歩行者の安全性、防犯性を確保し、小道周辺の情緒を演出する。  
全区で検討。

#### 6. 案内看板を整備する案

東海道の要所、交通、寺社、史跡、公園、公衆トイレなどを分かりやすく示した周辺ガイドマップを提示する。  
全区で検討。

#### 7. 歴史表現を整備する案

歴史を感じさせる各店舗、各家庭の建築物で、現在、テントや看板などで覆い隠されているものに、再び手を加え、まちの景観に歴史的表現を付加するものについては、その整備費を補助する。銅ぶき屋根や壁、看板、格子戸、格子窓、蔵、木造建築、漆喰壁、など。  
全区で検討。

#### 8. のれん、軒先を整備する案

商店のたたずまいを演出する。長のれん、のれん、木製大看板、あるいは新たに取付けける和風デザインの軒などを整備する場合にも、その整備費を補助する。  
全区で検討。

#### 9. 木製自動販売機を整備する案

まちのあちこちに設置されている、色も様々な自動販売機を木製の囲いでおおい（案内看板などのデザインと共通性をもたせる）、まちの景観上に歴史的な統一感を与える。  
全区で検討。

#### 10. 町会倉庫、消防、防災倉庫を建て替える案

既存の倉庫を建て替え、地域活動の円滑化を促進。  
全区で検討。

### ●各地区の個別メニュー

#### 1. 立会川：梁橋の横柱灯を復元整備する案

梁橋の横柱にかつて設置されていた街灯を復元し、再び点灯して、橋のもつ歴史性をアピールすると共に、駅前から続く景観整備に花を添える。

#### 2. 鈴ヶ森：街道松を整備する案

現在歩道に植えられている街路樹を「街道松」に植え替え、鉤松に見る江戸から明治、大正時代の東海道の風景を復活させる。

#### 3. 宿場通り南会：茶屋を整備する案

地区の人たちが、休日にまちを訪れる人々をもてなす常設の「茶屋」を建設する。

#### 4. 京急新馬場：お休み処を整備する案

商店街事務所の道路制約半分をお休み処として使用するためのリフォーム整備を行う。

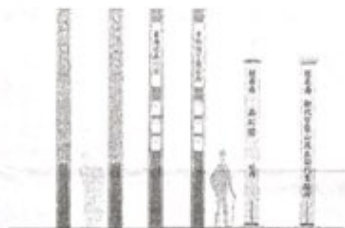
#### 5. 水辺を整備する案

八ツ山の舟だまり、品川橋のたもと、御島運河に、浮き桟橋や海上施設を建設し、だれもが水に親しめる環境を整備する。東京都が進めている運河ヘルネスサンスの活

動とも連携し、水辺のまち品川宿の再生を図る。

#### 6. 目黒川両岸にばんぼりを整備する案

昭和橋から居木橋まで、桜河岸を護がいあかりのばんぼりで飾る。地域の人々にはもちろん、主要幹線道路や新幹線、JRなどでこのまちを通過する人々にも、川面に映る美しい景観を提供する。周辺住民、企業、寺社の協力を仰ぐ。（整備費、電気使用費、メンテナンスなどについて協議）



左4本：商店街入りロゲートのイメージ

右2本：八ツ山口物示杭（ぼうじくい）のイメージ

### 八ツ山アンダーパスの修景整備に向けて

品川駅東口再開発による自動車交通対策として、かねてより工事中であった京急八ツ山踏切り下を渡る八ツ山アンダーパスの工事が遅工事のため、当初の工期を大幅に超えましたが、平成19年の秋に開通する運びとなりました。開通により、八ツ山方面から品川駅方面への自動車交通がこのアンダーパスを通ることになり、北品川の商店街の朝夕の交通渋滞が解消されることとなります。

この工事のため、かつてJR線踏切りにあった旧東海道各宿場の道標などが一時撤去されていましたが、撤去時の約束に基づいて復旧時の修景については地元任せるということで、まちづくり協議会と事業者の鉄道・運輸機構及び設計の上野計画事務所との間で、品川宿の入り口として望ましい景観について意見交換して来ました。この訓、事業者側には協議会の要望を大層に組み込んでいただき、国道事務所との調整を進め、協議会が要望する緑施設について品川区役所に要望していく段階になりました。神輿の運行に支障の無いように配慮をしながら、かねてから在った東海道の道標を復元し、その一角にゴジラ上陸を記念したゴジラの足跡レリーフの設置を目指しています。また新たに品川宿を訪ねる人たちの集合場所「旅立ちの広場」（仮称）が設けられる予定です。街道松を配した旧東海道品川宿入り口にふさわしい景観が実現する見通しになりました。修景の工期は平成18年4月から年末にかけてとなります。

新実正義

### 京急北品川駅の東口開設に向けて

京急北品川駅の改札口は西側国道に面しており、北品川一丁目、八ツ山、東品川一丁目方面からの利用者には、北品川踏切りが障害になっていました。朝夕、この地域の通勤者が待ちきれずに、踏切りを渡る姿はよく目にする光景です。東口改札口の設置は以前から、安全と北品川の活性化に必要なことと、あるごとに品川区に要望してきましたが、京急に改札口を設置する敷地がないことで実現しませんでした。

ところが今年4月、中嶋製パンが廃業し、建物が解体されコインパークになり、最近、隣の須藤商事の立体駐車場も解体に入るなど、広大な空き地が出来、将来、何らかの開発が行われるのは必然という状況になりました。そこで地元北品川一丁目町会、八ツ山町会、東品川一三町会、北品川本通り商内会、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の各会長が集まり話し合いをもちました。

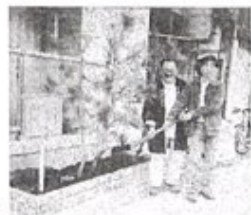
この空き地の開発は東口改札開設のいい機会になるのではないかとということになり、近く品川区に対し、京急及びデバローパーに対し働きかけをしをしてくるよう、正式に要望していくことになりました。

堀江新三

### 大磯宿から3本の松が寄贈されました

かねてより、大磯宿の三浦龍夫町長を通じて街道松の寄贈をお願いしておりましたところ、早速、石井晴夫様からお申し出をいただきました。昨年11月6日（日）、大磯宿祭りで大磯宿まで開いていただき、三本の松を預贈してきました。翌7日には、植樹を快諾してくださった青物横丁の栗原健次さん宅前に植樹することができました。この大磯宿の街道松で、東海道沿いには、7宿目の街道松が仲間入りした事になります。

写真の堀江会長とスコップを持っている方は、敷地をお貸しくださった栗原健次さんです。植樹式の後、竹で風除けをしました。まるで正月のようです。石井晴夫様、大磯宿の皆様、本当にありがとうございました。結果として三本頂いて非常にバランスが良くなりました。「大磯の三本松」として、品川宿の名所になるよう大切に育ててまいります。



植樹式

## 「大磯・宿場まつり」

「秋の三島大通り商店街 宿場まつり」に参加

「品川宿場まつり」では毎年品川橋の上で車切囃子を披露して下さる三島の皆さん、お返しに我々も毎年11月3日、三島の宿場まつりへ出店しています。

今年も7人で森田金物店前に店開き、品川海苔は天気にも恵まれ例年を上回る売上を達成しました。

三島に続き11月6日は大磯・宿場まつり。大磯の皆さんも毎年磯団子や国府太鼓で橋の上を盛り上げてくださっています。「今年も待っていた…」「青いねがおいしいのよね」と、もう常連の多い大磯のお客さん、たくさん買って頂きました。

「♪水も要らない、土も要らない、ただ置いておくだけで花が咲く♪」の名調子でサフランを売る三宅さん、今年は品薄で三島では売ることが出来ませんでした。大磯には200個限定で持ち込み、「サフランは大磯が発祥の地」と主張する大磯に敬意を表し、今年からは「大磯名物サフラン」で売り切りました。

また、今年は「街道松」の贈与式も行われ、大磯と品川はますます接近。朝から怪しげな天気でしたが午後3時の閉店まで一粒も降らず、片付けが終わって車に乗り込んだとたんに、ザー——！！

長谷山 純



大磯



三島

## 大阪守口宿での東海道シンポジウムに参加

11月12日、品川からは協議会の6人のほかに、区役所の山際さん・清水さんが参加してくれました。

いきなり「ちょうちん踊り」で始まった57番目の宿場。守口でのシンポジウムは、夜の交流会に至るまで終始芸能の披露に力が注がれていました。「東海道は53次ではなく、京都から大阪までの伏見・淀・枚方・守口の4宿を加えて57次にして欲しい。」の、熱意が開花した守口宿の喜びが表れていました。

来年の大会は坂之下宿に受け継がれることになりました。坂之下宿は、一時70軒もの旅館で栄えた宿場ですが、現在は人口数百人の疎らな民家があるだけだそうです。手作りの大会がむしろ期待されています。

長谷山 純

## 第15回しながわ宿場まつり

今年で15回を迎えたしながわ宿場まつりが9月の最終土日、24日、25日に行われました。おりから台風の影響にともない数日前からスタッフはやきもきしていました。

土曜日は、聖蹟公園を中心にキッチンカーを8台ほど入れ、特設舞台では、大道芸、松健サンバのものまね、チンドン屋、と時折雨に降られましたが、お客様にもテントを張り楽しんでもらえたと思います。夜になると雨は降りしきり、テレビの天気予報では台風の影響を知らせ、関東地方を直撃するとの予報。各方面から無理ではないかと中止の問い合わせ、キャンセルの連絡などいろいろの問い合わせで、てんてこ舞でした。

宿場まつりは絶対に中止しないとの実行委員会の強気の方針で、決行を指示していましたが、内心はみんなヒヤヒヤものでした。しかし、夜中の雲の流れを見ると何とか出来そうな感じになり、翌朝は曇ってはいましたが、雨も降らず、パレードがスタートする頃には明るくなり、日差しものぞき始めました。

今年は高橋区長の水戸黄門様がみられなく、ご挨拶だけで来年は絶対に出ると言っていたご安心を致しました。品川警察署長、1日署長の生田斗真さんが挨拶されましたがスタート前から通りには、いつもの宿場まつりらしからぬ若い女性が異常に多く見かけられ、スタート地点に近づくと、400人以上の女性に生田さんが囲まれている状態でした。しかしファンの会の代表が統率をしてくれていたので大きな混乱はなく無事にスタートできましたが、何人かから聞くと、三重県、新潟、仙台、岡山と返事が返って来て驚かされました。そして、今年は西洋武術の鉄砲隊が、鉄砲、大砲を持ってきて鎧を着、30名ほどで隊列を組み、パレードに参加しました。荏原神社の鎮守橋、後で品川神社の境内でと実際に撃ってもらい、皆さんから喝采をあびていました。

品川女子学院の150名によるマーチングバンド、交通少年団、消防少年団、江戸町人行列、着物学院、阿波踊りの2連、児童センター、福栄会、空手の会、その他数多くの団体の参加したパレードも終了、旧東海道を中心にマグロ解体ショー、ミニSL、芝居、露天、太鼓などが披露されました。今年から品川を中心にしたホテルの方々の協力でホテル村が出来、お客様からも好評でした。又、品川浦から東京湾への屋形船、公園での数々のアトラクション、豪華抽選会と、1日ではとても見きれない出し物に、5万人以上の入出で終日にぎわい、来年も又と言う気持ちを持ちつつ無事に終了しました。



品川寺の火渡荒行



江戸風俗行列